

伯和南時報

發行所 伯和南時報社
電話 七、四六七〇
社長 島石 明作
Director M. Samoshima
編輯 一ノノ 六十
印刷 一ノノ 六十
廣告は御座る大御座る

英、獨立不能と見越し

米英 聯合國家案提起の肚

國爾相下院へ臨んで言明

車拍々愈落没の英

(ロンドン十九日同盟) アトリック閣下は十九日下院に臨み、今後若し英米聯合問題が提起された場合には、下院は慎重審議の機会を與へられやうと次の如く言明した。
過般フランスに對して提案されたやうな聯合案が米國に對しては、議員諸君は爾前に此の問題を徹底的に討議する機会を與へられるであらう。チャールズ首相も斯る重大な案が提出された場合は、是を討議し、附すべき事を確約する用意がある。

獨伊の作戦大進展か

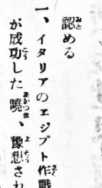
近く兩巨頭會談行はれん

ルタルラブリッ先
議協付に略攻

航空機に關する

英の對米依存益々強化

對英一ヶ月千機の供與近し



【ロンドン十九日同盟】米國航空機と英の航空機との協同作戦は、最近益々進展するものと見られる。英の航空機は、最近米國の航空機に對して、益々依存する傾向にある。英の航空機は、最近米國の航空機に對して、益々依存する傾向にある。英の航空機は、最近米國の航空機に對して、益々依存する傾向にある。

科學の力と精神の力

どつちが欠けても駄目

【ロンドン十九日同盟】科學の力と精神の力は、現代の人類に對して、最も重要なものである。科學の力と精神の力は、現代の人類に對して、最も重要なものである。科學の力と精神の力は、現代の人類に對して、最も重要なものである。

烈風も何のその

獨機の倫敦空襲續く

【ロンドン十九日同盟】獨逸の空襲機は、十九日午後、ロンドンに對して、再び空襲を行った。獨逸の空襲機は、十九日午後、ロンドンに對して、再び空襲を行った。獨逸の空襲機は、十九日午後、ロンドンに對して、再び空襲を行った。

佛印は現實的に動く

佛外相 對日交渉に重大示唆

【ワシントン十九日同盟】佛印の關係は、最近益々現實化する傾向にある。佛印の關係は、最近益々現實化する傾向にある。佛印の關係は、最近益々現實化する傾向にある。

佛政府

アフリカ植民地の保護始む

ガールル向け軍艦派遣

佛、植民地保全を決意

泰國の要求拒否もこの見地

【ロンドン十九日同盟】佛政府は、植民地の保全に決意を固めた。佛政府は、植民地の保全に決意を固めた。佛政府は、植民地の保全に決意を固めた。

一ヶ月リスボンに居た

郵船箱根丸錨を上げ

諏訪丸も日本へ向ふ

【ロンドン十九日同盟】郵船箱根丸は、リスボンに居た。郵船箱根丸は、リスボンに居た。郵船箱根丸は、リスボンに居た。

燃ゆる太陽の如く

數千上から火焔爆弾

【ロンドン十九日同盟】獨逸の空襲機は、十九日午後、ロンドンに對して、再び空襲を行った。獨逸の空襲機は、十九日午後、ロンドンに對して、再び空襲を行った。獨逸の空襲機は、十九日午後、ロンドンに對して、再び空襲を行った。

一九二一年米棉割當量

前年同様一、二〇〇万俵

【ワシントン十九日同盟】一九二一年の米棉割當量は、前年と同様の一、二〇〇万俵と決定された。一九二一年の米棉割當量は、前年と同様の一、二〇〇万俵と決定された。一九二一年の米棉割當量は、前年と同様の一、二〇〇万俵と決定された。

銀行界も新體制乗出し

獨機英の中央部爆撃

【ロンドン十九日同盟】獨逸の空襲機は、十九日午後、ロンドンに對して、再び空襲を行った。獨逸の空襲機は、十九日午後、ロンドンに對して、再び空襲を行った。獨逸の空襲機は、十九日午後、ロンドンに對して、再び空襲を行った。

獨機英の中央部爆撃

獨機英の中央部爆撃

【ロンドン十九日同盟】獨逸の空襲機は、十九日午後、ロンドンに對して、再び空襲を行った。獨逸の空襲機は、十九日午後、ロンドンに對して、再び空襲を行った。獨逸の空襲機は、十九日午後、ロンドンに對して、再び空襲を行った。

獨機英の中央部爆撃

獨機英の中央部爆撃

【ロンドン十九日同盟】獨逸の空襲機は、十九日午後、ロンドンに對して、再び空襲を行った。獨逸の空襲機は、十九日午後、ロンドンに對して、再び空襲を行った。獨逸の空襲機は、十九日午後、ロンドンに對して、再び空襲を行った。

獨機英の中央部爆撃

獨機英の中央部爆撃

【ロンドン十九日同盟】獨逸の空襲機は、十九日午後、ロンドンに對して、再び空襲を行った。獨逸の空襲機は、十九日午後、ロンドンに對して、再び空襲を行った。獨逸の空襲機は、十九日午後、ロンドンに對して、再び空襲を行った。

【ロンドン十九日同盟】獨逸の空襲機は、十九日午後、ロンドンに對して、再び空襲を行った。獨逸の空襲機は、十九日午後、ロンドンに對して、再び空襲を行った。獨逸の空襲機は、十九日午後、ロンドンに對して、再び空襲を行った。

あばれ大名

あばれ大名

【ロンドン十九日同盟】獨逸の空襲機は、十九日午後、ロンドンに對して、再び空襲を行った。獨逸の空襲機は、十九日午後、ロンドンに對して、再び空襲を行った。獨逸の空襲機は、十九日午後、ロンドンに對して、再び空襲を行った。

皇軍・世界大動亂裡に巍然たり 光輝彌増す 二千年 紀念觀兵式

諸兵參謀長澤田中將謹語を發表

【東京二十日電】二千年紀念觀兵式に際し、皇軍の威風凛々たる姿を、世界大動亂の裡に、巍然と現はせしめんとす。諸兵參謀長澤田中將は、觀兵式に際し、皇軍の威風凛々たる姿を、世界大動亂の裡に、巍然と現はせしめんとす。諸兵參謀長澤田中將は、觀兵式に際し、皇軍の威風凛々たる姿を、世界大動亂の裡に、巍然と現はせしめんとす。

基金一千萬圓で 日本貿易振興協會

我が戦後世界貿易確立策

【東京二十日電】日本貿易振興協會の設立が、今日正式に決定された。基金は一千萬圓で、戦後世界貿易の確立を期す。協會の設立は、戦後世界貿易の確立を期す。協會の設立は、戦後世界貿易の確立を期す。

東京銀行クラブ 閣僚招待晩餐會

河田藏相一場の演説試む

【東京二十日電】東京銀行クラブの閣僚招待晩餐會が、今日正式に決定された。河田藏相は、この晩餐會で、一場の演説を試む。河田藏相は、この晩餐會で、一場の演説を試む。

大政翼賛會事務局 四局一部制に内定

有馬伯・近衛公と打合せ

【東京二十日電】大政翼賛會事務局の組織が、四局一部制に内定された。有馬伯と近衛公と打合せが行われた。有馬伯と近衛公と打合せが行われた。

満洲建國の礎 英靈永遠に神鎮る

【東京二十日電】満洲建國の礎を築く英靈は、永遠に神鎮る。建國の礎を築く英靈は、永遠に神鎮る。建國の礎を築く英靈は、永遠に神鎮る。

執拗蔣政権の新首都 西昌に(西康)内定す

【重慶二十日電】蔣政権の新首都が、西昌に内定された。西昌は西康省にあり、交通の便がよい。西昌は西康省にあり、交通の便がよい。

海の荒鷲 浙韓線に連日の猛爆

【東京二十日電】海の荒鷲、浙韓線に連日の猛爆を行っている。連日の猛爆を行っている。連日の猛爆を行っている。

紀俊秀男 貴族院議員

【東京二十日電】紀俊秀男が貴族院議員に就任した。紀俊秀男が貴族院議員に就任した。紀俊秀男が貴族院議員に就任した。

我が領土内にあり 自衛手段に出たのみ

【東京二十日電】我が領土内にあり、自衛手段に出たのみ。自衛手段に出たのみ。自衛手段に出たのみ。

支那側勝手な熱を吐く

【東京二十日電】支那側勝手な熱を吐く。支那側勝手な熱を吐く。支那側勝手な熱を吐く。

定例 閣議

【東京二十日電】定例閣議が行われた。閣議が行われた。閣議が行われた。

有馬伯首相訪問

【東京二十日電】有馬伯首相が訪問した。有馬伯首相が訪問した。有馬伯首相が訪問した。

五ヶ月間の戦果

【東京二十日電】五ヶ月間の戦果が発表された。戦果が発表された。戦果が発表された。

地方長官會議

【東京二十日電】地方長官會議が行われた。地方長官會議が行われた。地方長官會議が行われた。

九月中旬の貿易

【東京二十日電】九月中旬の貿易が発表された。貿易が発表された。貿易が発表された。

労働靴界の王者

軽便労働靴

並に労働用皮ゾーリ (専賣特許番號二二二七一一〇三三)

三大特長

- 一、軽いこと
- 一、丈夫なこと
- 一、安価なこと

アラード使用の時

播種(プランタ)の時

除草(カルピー)の時

こてもよいので

何故か

軽くて丈夫なからです

サルバドール修繕用の皮

並に

本工場獨特のゴムソリ(小ピン三針)

各地方商店にあり

カマダ商店 製靴部

SIGEL KAMADA
LINS C. POSTAL 208
N. O. B.

家庭でたやすく出来る

意注御

(リアニ店商名有方地各)

各地方商店にあり

正しい治療 優しい看護！

壹等當選は和田喜久氏

先般来問に會つて、宮原實を受けたことゝ
 において廣く
 在留同胞間か
 ら募集中であ
 るが、昨二十日正午より
 日本俱樂部に邦子新聞記者を
 招きその発表會を催した、當
 二 保健の殿堂
 等 (B) 感謝で利用！
 岩波 八汐氏

つた時本院
の期日までに應
破し、中には寄
意と當事者の云ひたし所を
選作の何れもが今幾吾等の病
院として育て上げねばならぬ
三等 みんなの病院
(A)みんなで活かせ！
中央線サ・ミゲル
福家 毅氏

聖市ガルボン・
 プエノ街
 松永 良二氏

一等
 正しい治療優しい
 看護明るい病院！
 三等 忘るな健康
 (B) 活かせよ病院
 ソロカバナ線

事務長、福川事務長
 野村文教會事務
 村井庶務主任立會
 二等 磯上頼
 和田 喜久氏
 三等 寶森 清氏
 異郷に安し
 吾等の病完！
 (C)

三都市で行はれた
(A) われらの病院！
聖市 春原武毅氏

日本病院披露會

院では母國外務省第二課内に聖市日援會を設置して、十七日外務次官々會にて谷次官、東京、名古屋等地方の主なる用捐者、協力者を招待、棉花社長黒田立之祐氏等二十九名、神戸市では七月五日オ

門を突破して出る

募集に大意であ
當日は後援會副會長徳川頼貞
侯爵、日本製鐵取締役會長平
生鈺三郎氏三十四名の出席大
リエンタル・ホテルに於いて
同局長主催で出席者は神戸商
工會議所會頭榎本充造氏、神

富田君は東京
三都市で事業状
況の披露を行
なすに於て、東
洋紡績副社長
の出席者で、今
後同病

水害管
に於ては六月二
社長關桂三氏、伊藤忠商事專
院を移授すると同時に日伯兩

南米から歸つて

泳にバタフライが

全盛を極むる南米！

國をはじめ南米各地と航海中各寄港地に於てエキジビション或ひは水泳に出張し、到るところで全勝の戦績を残し水泳ニツボンの眞價を遺

發揮したスポツ使節一行中の遊佐正憲選手が、その歸國の途次もつて丸がたまふところ五日で懷しの横濱に着くべく發深ひ南太平洋を走つてや、船上でアサヒスポツより執筆依頼の電報に接し直ちに筆を執つて

を出発したのが一月の十七日、東京會ひ中央線乗りスチームなしの臨時列車で冬服の上にオー

と船岡のナグト・ハをひづかけてカタカタふる。船はオースンビタ大酋の屋敷

標語

喜久氏

人間の友好關係の増進に盡力
きたまねとの意で、盛大を極め

山下汽船
山下一二番
重田一二番
一四七番

本店長根本氏が要請を帯び一日下町を巡りて來伯し目下車中に滞在申す

附坂支店長井口氏は所用あつて低地マゾンより一日下空路來駈た

聖市ビネロス萬エヂソン・デラス街百十六番の教団車日

本人部ビネロスの小隊では来る廿二日(日曜)七時半より歐芝町のオウチキ事業山遊二氏を招いて歐四及歐蘭等之と演説をする

大資本を誇る株式社會松樹園聖市事務所は商業興隆に伴つて壯麗途上にあるが、今度ドン・ジョセフ・オパヘルス街一五二番十階一〇五號室へ移轉した。今度の廣川氏の手腕が期待される。電話號碼は四一四五四一番

◆
スマイトを焚く。観劇可申す。新
館で、監製人海客をあつめてゐる
觀者、矢張り洋服店では、今更
在の所で、は手続なでは、
日中にバチンゲータ街六三
番（元平田町御前）へ引違
すこととなつた。

一粒肝血、リバと腎臓保護の
薬を食ふ。さけその密々々然
て、つい先日太閤登壇した
が賣出した、西谷商會の貨庫を一
つ奪取しただけで、すぐ羽を生

やして飛んで出るので、セー
ロりのか價値も、この點で注
がネク／＼です」とこぼして
ゐた。
最大の曲馬馬鹿ルコ・サラサ
ニとは最近ゴッパ殿下のダ
セオに突べど公園上の脚に一
万人を入れる大公開の演を渡り
業樂場中の興、昨日未明火
を起し全焼した下つた。損害
莫大の見込

來月日本へ歸る時のブラスコ
クト神童と監製人那人ゴルフ

俱樂部へ寄附した観劇カタブ
をめぐつて、来る廿九日まで
ナリ、リンクでその明等、現
が行はれる。我と思はんもの
は疑ひなく、對と思はんもの
は疑ひなく、對と思はんもの
は疑ひなく、對と思はんもの

◆
家族親睦亭としても有名な一
市一方弁は、最近女給さんら
増して監製新鮮味を加へ、
市判所にタロリアズアツス
れて來たが、女給さんアツ
断斷異色を放ち、暮夕超子
高杉南舟、堤真佐子等々いた
はきき花燈籠の光景

純國產船「報國丸」の
豊かな船内装置!!

七洋郵船の意氣を以て世界海運に君臨する大版圖が、約る三姉妹に、驚天の速力を出してゐる所謂快速船としての名を配り、かしめぬものである、各公室を貫く船内装飾は純國產船として實に壯快を極はめ、瀟灑とした若き日本國が遺憾なく

本日情緒

報國丸の第一級船報國丸は一時二十・五ノットを出してゐる

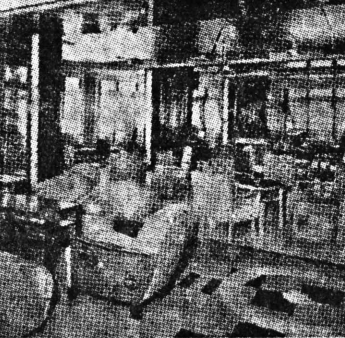
所産の豆に於ける快心の製造とされ、
 國産豆の開室「奈良」や食
 官、味噌等との調和より表
 現に苦心のあとがうかがはれ
 る。特に食室に於ける天井、壁
 間其他の調度品或は配置等
 本式の様を見せたり註客を導
 母陣に遊ぶと思ふらしめる趣向
 としてゐる。(寫眞は日本傳統
 なつぷりな装束)

ある折柄、藝術を通じて兩
 國親善に寄與すべく、前案を携
 へ來朝した大橋國太郎夫妻は、
 亞細アカリオへ直航し同市
 於て親睦會を開き用務を果
 て後來歸する

恒例ウニダ教會の
 フリマペーラ祭

去る十八日午後八時からエル
 ベチア街七百七十二番ウニ
 ダ教會で催された資金運動
 を聞く

私は日本新聞について云々



惜しみ惜しま
内山公

仕事にも閑愁にも名残を惜し
み惜しまれつゝ、吾國を去つて
歸朝する内山公使夫妻は、そ
の途次、節任地富嶺にも立寄り
知友と更に惜別する筈であつ
たが、肉氣の爲め果たさずな
つた、内山さんは在郷當時日
鰯が来る毎にキツト兩宇に一
杯の花を抱えて歸地を訪れ、

れて去る

使夫妻！

又惜しい事を在伯同船も
一様に残念に思つてゐる

大橋畫伯夫妻

リオへ直行

伯國々防工業に一燈

「う、然し、伯人那人を遊ばせて盛大な舞を見せよう。華のうちに十一時幕を閉たさ、開教會はコーラスを閉たして有名であるが舞師」ダンク、以て、音楽等々盛りに澤山プログラムによつて行はれ、羽人鞍にビネイロスから娘さん連中が日本情緒を味ふに足る舞袖舞衣を着込んで、感嘆を抱した、此日本娘の舞師と就て隣席にゐる音楽が好きで太いの脚師には出て囃りませ、今夜は物と違つてゐる、もうどう何んとか工夫が必要ですわ又音樂メキの口で拍子をつけて踊る手はあまりません來吧かには服や鞍に日本音樂、露音器でも結構、編附等を研究するやうに、脚師のために惜しまさう云々

寄つた想出多い番組、シン
ボール經由で順承へ向つた
のである。これこそ新番組で上
りな

（出帆） 三十五日目に南米
の地リオ・デ・ジ
ア

ズン・オフであつたにもか
はらず、さうとう解成な艦
をやつてゐるブラジル選手と
一緒に午飯前後の練習を行つ
て、来るべき大舞台にそなへる
ことになつた。

二百半泳、二分三九秒、兼
室（日）、新▲百米半泳、

バナナやバナナ實の產物として米國のトムをぢさんの中米討取米討

米國數百萬ドルを投資

（ハ）向して新しいドル外資の輸入を促してすでに二十個以上の輸出總額カルテラ案または輸出銀行の増資による借替資金の擴張を計つてゐることに就いてリオのニュータイタリスの報する所によれば、米國は德國に對して數銀行の保證を條件として數百萬ドルの借款を提供してゐる、これに技術的援助を與

國のトムをぢさんの中米討取米討

ない泳法である。バナナライで二百メートルを泳ぐるのである。あの泳ぎ振りは四百メートルあたりまでもつて行けると思ふ。バナナライは今や中米の平泳を風靡してゐるやうだ。中米では、種選手は勿論少年にいたるまでこの泳法を行つてゐる。

（試合）

或は歡迎會と一日として假の時はなかつた。二週間余の準備を齊してわれ等同國の觀客に代表選手に接するの機会がある。われ等は想像以上のものがあつた。

バナナライで二百メートルを泳ぐるのである。あの泳ぎ振りは四百メートルあたりまでもつて行けると思ふ。バナナライは今や中米の平泳を風靡してゐるやうだ。中米では、種選手は勿論少年にいたるまでこの泳法を行つてゐる。

エキジビション製法を行つた。昨日の盛んな喧嘩ダーバ、ケープタウンにおいて、想外のエキジビションを行ふことの出来たのは愉快なことだった。

上の練習は小さなプールで、着の上からベルトをしめ、右の上からベルトをしめ、下に網をつき前進せぬ様に開ちながら引張つてもらひなが

は想像したより美しい大都會で、我々の認識不足を恥た程である。

ベブメントをモザイクで飾装し、続いたる熱帯朝の風木路、白砂の海岸、氣候も東洋の夏を知るものにとつては大した苦痛ではない。上座五目目に試合の日取が定まつた。

ちやうど暖米においてはター

一分二秒七、葉室（日、新）▲自由出、五八秒四、遊佐▲二百自由、二分十六秒、遊佐

フルミネンセ、クラブの大體を網出にオオにおいては六ヶ所餘の各クラブにデモンストレーションを行つた。われ

8

行はゞルマニア・クラフ五十二百自由、遊佐△二百自由、二分一七秒五、遊佐△二百秒、一分一四秒六、葉室△二百秒、三分〇秒四、葉室

(一日) 雷てエスベリア

間歇夜燈が行はれた。日本人が大多數を占めた盛大な大舞であつた。(さくく)

――眞は遊佐選手――

力することになつた

ブラジルはこれまで國防に關係ある基礎工業に著しく希望にもかゝらは、外國資本の加入を歡迎せずし、資本の加入を制限したことがつて行儀のみ状態の資本の参加を懸念したの故に、新設社はブラジルの財務省の管理下に資本金五千万コントスの株式社を設立し、これをブラジルの民間資本を動員して創立することになつた

重要商品市況	
○モノナ キロ 六〇 四二五	九月十九日
○ベニヤ 南大洲 一七三 二六八	實價
○コナ （オホスギ組）	實價
○ビルド 三五、 三六	
○マリノ 二七、五 二八	
蔬菜相場 九月二十日	
コナア區品 安値・高値	
トマテエシナル三品	
ブリーロ	
セブンド	
レポリオン	
ピメント	
ピーゴ	

スプリット 空窓
エスベシャル 空窓
エン 空窓
レダワール フォナル
△コレス 大○キヨ
ロダワール 空窓
ロジニエール ノミナル
シュンビエール
△ミヨ 大○キヨ
フアラレン 100 141
アラレロ 18 18
アラレレン 18 18

ELEGANTE
PHONE: 2-0941 - S. PAULO
ンテはサンパウロでは一番豊富に揃って勉強して居ります
— ゴーラス — ボト
— レンリ — シンタ
ベッド、寝臺及卓上用布類一切

[illegible]

夫妻者一家族

至急招聘せし。僑胞す
蔬菜業(男) 家事(女)の手傳
御希望の方は
モヂ産組氣付 片山浩平 宛
ブラジル料理に經驗ある
異国目なる方を雇ひ度し
ボンレチーロ區
ル・ア・シロン七〇八番
フオード工場前

CASA FOSTER

C. Postal, 56 - S. Paulo

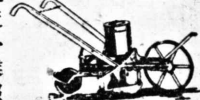
ラード各種
揚ポンプ

取粉機
脱米器
乳油器

重油機器
發動器
各種器具

農用機械
一切商用品
Romi 播種器
Foster 印刷機
御座下さい、近方は論より澄佳一來店下さい、商業日本文にて値段照迎



Rua Florencio de Abreu, 562.
(ESQ. RUA SENADOR QUEIROZ)

Restaurante
Gaverna Paulista
R. Libero Badaro, 39
Tel. 5-2978 - S. Paulo

各種内外飲料	裏會、婚禮には
特別サービス	店の程を
家族揃つて御來	畫畫
夕食	七斤

母エハ儀病氣療養中の處去る拾二日午後八時永眠住り翌十三日サントアナスタシオ共同墓地に埋葬仕り候間生前縣知諸賢に謹告仕候
葬祭の際には遠路馳々御會葬被下留又過分の御書料謹以厚く御禮申上候
昭和十五年九月二十日
上 園 達 夫

Dr. G. CIRUGIA
ル・セ・トリス
中央メルカド前
一二六

至急人用
バスサドル一名
(ベンチ・フカディーニ)
ロゼー
モンテリ市街二六〇
チツラリアール
イデアール

外科手術一般、婦人科、産科
小兒科、内科一般
肝臓、胃腸、盲腸、脱腸、
風濕膝、膀胱、腎臓、瘤腫
水腫、子宮、卵巣、喇叭管
閉鎖手術、痔、靜脈瘤の無
手術療養

各位

御知らせ

鹿兒島縣人
外交員 三好氏
Isao Miyoshi

今般同氏は都合により退職致し候につき今後
は當、場とは何等關係無之候間此段謹告仕
マツリア市バエラ・レーメ街一〇九
青木製麵工場

呼吸器の補強に

ハリハ

有地各

肺、肋膜炎の病人、かぜを引き易い人、陽當りの悪いビル内で勤務する人、或は、結核に罹らぬための補強剤としてハリバが盛んに常用されます。

昔の服みにくかつた油劑と違ひ、小豆大の甘ひ小粒で用職も大人一日僅かゴ、四粒の微量で足り、ポケットに携帯し毎日の常用には適宜です。



りあに店理店

Edição Brasileira

Tradução dos artigos principais em lingua japonesa

Conferenciaram Ontem em Roma o sr. Mussolini e o Ministro das Relações Exteriores do Reich

ROMA, 19 (Domei) — O ministro das Relações Exteriores do Reich, Baron von Ribbentrop, manteve esta tarde uma conferência de duas horas com o sr. Mussolini, chefe do governo italiano durante a qual se acreditava que traçaram os planos do eixo Roma-Berlim a serem executados em futuro próximo. Em círculos geralmente bem informados é tomada como absolutamente exata a versão segundo a qual esse colóquio resultará proximamente grande intensificação da guerra contra a Grã-Bretanha, com o fim de se atingir tão rapidamente quanto possível o seu epílogo. Na entenda nada de oficial transpirou da conferência, que se realizou no Palácio Venezia hoje à tarde, embora se pudessem observar na fisionomia dos srs. Mussolini e Ribbentrop significativas manifestações de satisfação.

O comunicado oficial publicado após a conversação diz simplesmente que o chefe do governo sr. Mussolini recebeu o ministro do Exterior da Alemanha, mantendo com ele demorada e cordial conversação na presença do conde Ciano, ministro do Exterior da Itália, do embaixador alemão em Roma sr. Mackensen e do embaixador italiano em Berlim, sr. Dino Alfieri.

O ministro von Ribbentrop chegou a esta capital às 12 e 55 em um trem blindado composto de três carros. O ministro do Exterior da Itália conde Ciano, e altos funcionários da chancelaria receberam na estação o ilustre visitante. Em companhia do conde Ciano, o sr. Ribbentrop, se dirigiu à Vila Madama

onde se hospedará quando de sua última visita.

A terminar a conferência com o sr. Mussolini o ministro alemão tornou à Vila Madama, acompanhado

do conde Ciano onde permaneceu até à hora de comparecer ao banquete que seu colega ofereceu em sua honra no aristocrático Clube de Casa.

O JAPÃO E A AMERICA LATINA

O JAPÃO E A AMERICA LATINA — Em relatório a Embaixada do Brasil em Tóquio enviou informações interessantes sobre atividades comerciais e econômicas do Japão. Em um dos seus trechos refere esse trabalho que entre as razões dadas pelo Governo japonês para explicar as tentativas que agora faz para expandir o seu comércio com a América Latina, resalta a da guerra européia, que veio não só diminuir as exportações de produtos nipônicos para países da Europa, como também aumentar as necessidades de aquisição de matérias e artigos de primeira necessidade, até então comprados na Alemanha, Inglaterra, França e Suécia.

dois países. Com a Missão Kato, esperam conseguir um maior fornecimento de algodão do Brasil, e do Peru, de oleos da Venezuela, da Colômbia e do Peru. Neste desejo, pensa o Governo negociar acordos comerciais com cada um desses países, visando principalmente os produtos acima mencionados. Ao mesmo tempo nutre a esperança de ver o seu comércio de exportação para a América Latina duplicado dentro do plano que tentam em execução. As exportações japonesas para os países da América Latina atingiram, no ano passado, a soma de 11.767.000, enquanto as importações alcançaram a soma de 8.440.000. Negociando novos acordos com os países da América Latina, o Governo japonês espera o aumento de suas exportações para esses países, diminuindo o déficit.

O Programa Militar dos Estados Unidos

O noticiário dos Estados Unidos anda cheio de rumores alarmantes. Milhões e milhões de dólares. Alargamos fantasias. Durante o tempo de guerra. Não se quantos aviões. Exercícios colossais. E tudo o mais nessa mesma relação gigantesca.

Quem acompanha, de longe esse noticiário, pensa no caso daquele indivíduo que edificava para sua residência um palácio maravilhoso. E a riqueza da arquitetura não seria obra para conclusão fácil. Demandaria a os anos de esforçado trabalho. E o que surpreendia era o arrojado da arquitetura, pois o dono do palácio sofria, no momento gravíssima enfermidade sujeita a um prognóstico sombrio. De modo que, a vista da construção imponente todos diziam: «Que belo palácio!» Mas acrescentavam sem demora: — «Contanto que o dono viva até a sua conclusão».

O caso dos Estados Unidos não é propriamente o de um doente condenado à morte. Mas a utilidade de suas construções militares está sujeita a uma condição que não depende da vontade americana. Quem lê a lista dos barcos de guerra encomendados, pensa na clausula a que estão sujeitos: a vitória da Inglaterra ou, pelo menos, a sobrevivência da Inglaterra. Se a Grã-Bretanha for esmagada, a ofensiva atual da aviação germanica, os navios e os aviões americanos serão tão inúteis quanto as montanhas de ouro acumuladas nas casas fortes dos bancos yankees.

Liquidado o poder naval britânico os Estados Unidos não teriam o que fazer de sua esquadra colossal. Os mercados asiáticos ficariam definitivamente com o Japão. A Europa seria um feudo da Alemanha. Nos mercados americanos a ação dos barcos de guerra não impediria a vitória comercial da indústria alemã. A América, isto é, o Novo Mundo não sentiria nenhum interesse numa luta armada contra a Europa, o que exclui qualquer ideia de solidariedade continental, numa guerra ofensiva. E a guerra defensiva não seria também possível.

pela razão muito simples de que a Alemanha não precisaria de armas, para invadir os mercados do Novo Mundo. Os dissídios internos as lutas de partido, as divergências de interesses dentro de cada país se regeneriam o resto da missão, no favorecer os planos germanicos ou no embarcar a ação política dos Estados Unidos.

Não é que faltem sentimentos de solidariedade entre as nações da América. Ao contrario sentimentos há até de mais. Mas os sentimentos deixam de valer quando os interesses começam a contrariar-se. A unidade americana está sujeita a muitos fatores e influencias suficientemente fortes para que ela resista a um trabalho de desagregação calculado e sistemático.

A eficácia dos armamentos dos Estados Unidos dependerá como o futuro do mundo vai se definir, de uma condição essencial: a sobrevivência da Inglaterra. Se a Inglaterra capitular, não terão os Estados Unidos o que fazer de seus novos couraçados e de seus novos aviões. O Japão ficaria suficientemente aliviado para aumentar o poder de sua esquadra, até o ponto de enfrentar sozinho a força americana. Mesmo porque depois de quebrada a resistência chinesa, o Império do Sul Nascente não teria necessidade de ação ofensiva. As 4.520 milhas que separam Yokohama de São Francisco valem muito mais do que a linha Maginot, pois que não estão expostas a manobras de flanco.

Quem lê as notícias maravilhosas dos novos planos de construções navais quem acompanha o debate das casas legislativas em torno do serviço militar obrigatório, quem vai mostrando os fabulosos créditos abertos para a compra de aviões de armas de tanks, tem vontade de observar: «Contanto que isso venha de alguma coisa». A primeira impressão de um observador desapassionado e talvez não de todo destituído de simpatia pelos Estados Unidos é a de que a grande nação do sr. Roosevelt está cons-

truindo uma espécie de esquadra postuma. A menos que os lados beneficiadores da humanidade queiram determinar o contrario.

Importante conferencia entre os membros do governo nipponico

TOKIO 19 (Domei) — Os membros do governo japonês e os chefes dos diversos serviços publicos conferenciaram esta tarde durante tres horas no palácio imperial na presença do imperador Hiroito.

O comunicado offi. distribuido pela secretaria do gabinete diz o seguinte: «Importantes prolamas de Estado foram discutidos durante a conferencia a que compareceram o chefe do governo, os ministros da Guerra, Marinha, Exterior e Finanças, os chefes e sub-chefes do Exército e da Marinha, os chefes de Estado-Maior do Exército e das forças navies, e o presidente do Departamento de Planos».

DESAFIO DA ROTA DOS NAVIOS JAPONEZES QUE DEMANDA A EUROPA

TOKIO 19 (Domei) — Segundo informa a agência japonesa Domei, a Nippon Yusen Kaisha, uma das principais companhias de navegação nipponica decidiu desviar para o canal do Panamá a rota dos seus navios que partem do Japão para a Europa. Essa medida foi tomada em virtude do crescente perigo que offerece a rota da Africa do Sul.

A agência Domei acresce que o transatlantico Suwa Maru, será o ultimo navio japonês a locar em pontos ingleses e o ultimo a se utilizar da rota sul-africana.

O MINISTRO JAPONES DE ROMA — Os circulos bem informados declaram que o actual embaixador do Japão em Roma deverá ser substituido dentro em pouco pelo sr. Horikiri ex-ministro adjunto do Departamento de Finanças.

As condições de cultivo de uma planta são muito importantes para o sucesso da colheita. A escolha do local, a preparação do solo, a época de semear e a manutenção das plantas são fatores essenciais. O agricultor deve observar atentamente essas condições para obter uma boa colheita.

Os resultados das pesquisas realizadas em diferentes regiões mostram que a adaptação das plantas ao ambiente local é fundamental. Isso requer conhecimento e experiência do agricultor, bem como o uso adequado de técnicas modernas de cultivo.

Para garantir a produtividade e a sustentabilidade da agricultura, é necessário investir em pesquisa e desenvolvimento. Isso inclui a criação de variedades mais resistentes a pragas e doenças, bem como a melhoria das técnicas de irrigação e adubação.

A educação dos agricultores é outro ponto crucial. Eles precisam estar atualizados sobre as novas técnicas e tecnologias disponíveis. Isso pode ser feito através de cursos, workshops e outras formas de treinamento.

Por fim, a cooperação entre o governo e os agricultores é essencial para o sucesso da agricultura. O governo deve fornecer suporte técnico e financeiro, enquanto os agricultores devem seguir as recomendações e regulamentações estabelecidas.

農業

決して有毒作物では無い

肥豆を植えよ

自分の財産の保護だ

雨季に裸地は禁物

葡萄酒の残糖

牛馬の餌となる

水やり方がコツ

世紀の英雄

（二十九）

（三十）

味の國祖

仕奉へ國故

HSK

印湖名濱

焼蒲ぎょう

社合式株品食湖名濱

Dr. Alarico Franco Caiuby

TSUGUO KISHIMOTO

Escritorio: R. José Bonifácio, 233

3.º and. salas 310/312 - T. 1-1. 2-1137

C. P. 1124 - São Paulo

時報商事部

地方取次所

（本）

（支）

丸薬ハリバ

肝油ハリバ

（日本製）

古来東西の間は肝油が健康の王座を占めて居る